

国立病院機構熊本医療センター

No.222



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519



## 熊本市災害医療福祉訓練が行われました

10月24日に熊本市災害医療福祉訓練が行われました。熊本地方を震源とするM7.2、震度6弱の地震が発生し、熊本市内の道路・橋梁等の一部が通行不可、電話も一部不通となり、当院ではエレベーター、CT・MRIが使用できない状態という想定で訓練を行いました。

発災後の職員参集に始まり、災害対策本部会議運営、広域災害救急医療情報システム(EMIS)運用、多数傷病者受け入れ、災害用テント設営、非常食炊き出し、通訳ボランティア受け入れ、臨時調剤所・仮設病棟設

置、災害用カルテ運用など多岐にわたる訓練を行いました。

参集した職員の役割分担をその場で決定したうえで各部署を立ち上げるなど、本番さながらの緊張感で参加者全員が真剣に取り組み、非常に有意義な訓練を行うことができました。

参加者の意見をもとに、今年度の反省点を踏まえて今後の災害対策の強化を図りたいと思います。

(救命救急部 北田真己)

通訳ボランティアを交えての訓練の様子



本年から非常食炊き出しの訓練も行いました



### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供  | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進      | 5. 国際医療協力の推進     |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営          |

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 「藤の花とともに」

井上整形外科クリニック  
院長 井上 誠一



琴平本町にて井上整形外科クリニックを開業しています井上と申します。高橋毅副院長より「くまびょうニュース」登録医紹介欄に寄稿してもらいたいとの電話があり、思いつくままに書かせていただきました。まずは病院の紹介をいたします。私どもの組織は井上整形外科クリニックと整形外科井上病院の二つの組織で成り立っています。医療法人名は「藤浪会」です、代々藤の花の元にて開業していたもの

で、父が藤の房が風に吹かれるまま、自然に逆らわず、しかも短い盛りを謳歌して、さっと終わる潔さが大好きでこのように命名したと話したのを覚えています。今の私がこのように潔さを体現できているのかはいささか不安なものです。現在整形外科単科で診療に従事している私共は熊本医療センターの多くの科に、診療、治療に大変お世話になっています。迅速な対応をしていただき、患者さんは勿論の事、私共の病院も大変助かっており、毎日の診療を安心して行うことができ、心より感謝しております。次に私共のクリニックは午前中は高齢の方が多く、慢性の関節疾患、脊椎疾患、骨粗しょう症などおいでになります。午後より夕方にかけては学生さんが多く、スポーツ外傷、障害で、ご両親共々と学生さんの試合のスケジュールとにらめっこで、涙あり、安堵ありの大変な時間となります。治療がうまくいき笑顔で試合の話ができたときスポーツ医として医者冥利につきます。学生さんにご両親の要望で週一回の夜間診療を行っています、職員のみんなには負担を掛けながらでの診療で、申し訳なく思いながらも、「学生さん大好き」を貫いています。連携の有難さを感謝し、熊本医療センターの皆様にはお世話になることが多々あることと思いますが、今後共にご指導いただけますようお願い申し上げます。

## 第21回 国立病院機構熊本医療センター-医学会の開催と演題募集のご案内

第21回国立病院機構熊本医療センター-医学会が2016年1月16日（土）に国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。

例年通り病院全体の職種が参加し発表します。

開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。

応募方法は演題抄録をCDRまたはUSBメモリに入れて下記宛てにご送付頂くか、e-mailにてご送信下さい。多数のご参加をお待ち致しております。

抄録提出締切日：2015年12月4日（金）

- 抄録の文字数は全体（演題名、所属、発表者、共同演者、本文）で600字以内にしてください。
- 本文は【目的】【方法】【結果】【総括】、症例報告は【目的】【症例】【経過】【考察】にそって記述して下さい。
- 図表の使用はできません。半角カナは使用できません。
- 尚、発表は原則としてPCで、使用ソフトはパワーポイントで作成したものに限りします。
- 発表時間は6分、討論3分です。
- 参加費は無料です。

お問い合わせ・送付先：〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号

国立病院機構熊本医療センター-医学会実行委員 臨床研究部長 芳賀克夫  
TEL：096-353-6501 FAX：096-325-2519 E-mail:scott@kumamed.jp

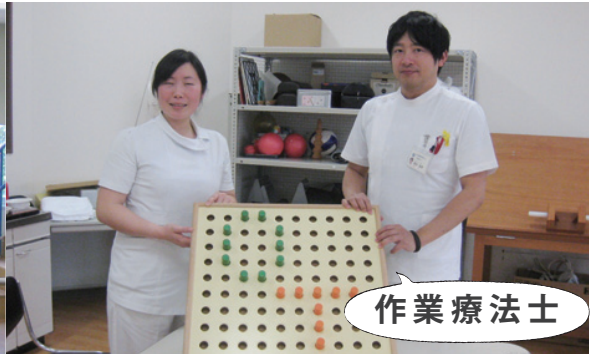


# 職場紹介

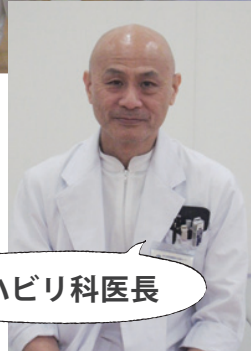
## リハビリテーション科



理学療法士



作業療法士



リハビリ科医長



言語聴覚士



5階南

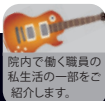
リハビリは、  
ここ

リハビリテーション科は、脳血管等疾患Ⅱ、運動器Ⅰ、呼吸器Ⅰ、がん患者リハビリ料の施設基準を取得しており、橋本伸朗リハビリ科医長の下、理学療法士6名、作業療法士2名、言語聴覚士2名の10名で運営しております。

リハビリ対象疾患は、骨折などの整形疾患・脳梗塞などの脳血管疾患が大半を占めておりますが、がん・外科術後・内科疾患等多岐にわたっています。

術後早期のリハビリ対象者には、土曜日、ゴールデンウィーク、年末年始などもリハビリを提供しております。大腿骨頸部骨折など治療期間が長くなる疾患に対しては、転院先となる回復期施設と連携をとりながら、地域連携クリティカルパスを使用し医療の質と向上に努めています。

(理学療法士長 高野雅弘)



院内で働く職員の私生活の一部をご紹介します。



田所広太くんを紹介いたします。  
日頃勤務している彼はまじめで、おとなしいイメージですが、勤務を離れると・・・



彼の趣味は、野球、ギター演奏で、野球は小学校3年生から始め、高校・大学ともにエースとして活躍していたそうです。現在も当院の野球部にも所属しており、もちろん背番号1。

また、ギターは中学校から始め、現在密かにバンド活動（ジャンルは Alternative Rock）を行っていて、休日にレコーディングをしたり、不定期ではありますが街中のライブハウスで演奏しているそうです。野球と音楽を通して心と体のリフレッシュを図り、患者様に思いやりのある理学療法を提供している彼です。皆さんも彼のライブに行ってみてはどうですか？



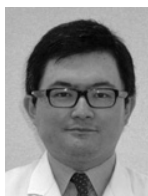
レコーディング中



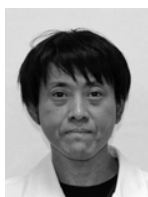
LIVE 中

田所くん

# 2015 診療科紹介(88) 皮膚科



**医長**  
**牧野 公治** (まきの こうじ)  
皮膚科一般  
医学博士、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医



**医長**  
**本多 教稔** (ほんだ のりとし)  
皮膚科一般  
医学博士



**医師**  
**青井 淳** (あおい じゅん)  
皮膚科一般  
医学博士、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

## 診療の内容と特色

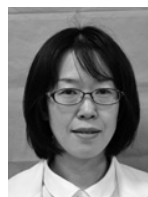
私たちは、地域の急性期中核病院の皮膚科として、入院治療を必要とする皮膚疾患を中心に診療しております。広範囲に及ぶ各種皮膚疾患、全身管理を要する中毒疹、水疱症、ウイルス・細菌感染症、そして大きい皮膚腫瘍切除や植皮など手術センターで手術を行う症例などを受け入れています。また外来診療では、皮膚科だけでなく他科の開業の先生方からご紹介頂いた方、合併症をお持ちの方、全身症状と深く関わる皮膚疾患の方を中心に診察しています。特定の専門領域はありません。皮膚科全般に幅広く対応し、総合病院である当院の特徴を生かし他科や紹介元と協力してスムーズに診療できるよう努めております。また悪性黒色腫などの高度専門性を要する疾患については熊本大学医学部附属病院皮膚科・形成再建科と密に連携して対応いたします。

重症の緊急入院が多い当院では患者様が褥瘡や薬疹などの皮膚トラブルに遭遇することもございます。その場合も主担当科と共同で、あるいは皮膚科が主体となって切れ目のない診療を行っています。そして褥瘡回診や院内研修会での教育等を通じ、医療安全・危機管理の面からも積極的に活動しています。

皮膚疾患は皮膚に限局するものだけではなく、全身に影響を与えるもの、全身疾患の一環として生じるもの、そして他の疾患が原因で新たに生じるものと様々です。総合病院である当院の特徴を生かして他科



**医師**  
**工藤 恵理奈** (くどう えりな)  
皮膚科一般  
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医



**医師**  
**西 葉月** (にし はづき)  
皮膚科一般  
医学博士、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

と協力し、またご紹介頂く先生方とも連携してスムーズに診療できるよう努めています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 診療実績

2014年の実績(括弧内は昨年比)です。  
外来の新患者数は1182(+46)名、紹介率は61.7(+10.0-3.4)%、逆紹介率は54.0(-9.9)%でした。入院患者数は219(-76)名、平均在院日数は15.3(+1.7)日でした。蜂巣炎・壊死性筋膜炎等の細菌感染症が約4割と最も多く、腫瘍等の手術症例、ウイルス感染症、水疱症や膠原病などの自己免疫疾患、と続きます。

手術患者数は、手術センターでの手術は62(±0)例、外來手術は267(+39)例でした。

## 医療設備

**ナローバンドUVB照射装置**：乾癬をはじめとする炎症性皮膚疾患や尋常性白斑などのうち、重症、難治な場合に使用しています。

**ダーモスコープ**：特に色素斑や腫瘍性病変について、メスを入れることなく詳細に診察を行うことが出来ます。

**電気メス**：主に膿瘍切開や壊死組織除去で皮膚を切離するのに用います。止血しながら行うことで、出血量の減少や止血時間の短縮により侵襲を軽減できます。

**真菌検査**：皮膚科独自に検体の鏡検等を行い、より正確な診断に努めています。

## ご案内

地域医療支援病院の皮膚科として、かかりつけ医の先生方のご協力の下、緊密な医療連携、情報提供を通じて地域医療の充実を図りたいと思っております。当科受診の際には是非かかりつけの医療機関からの紹介状を持参して頂くようお願い致します。

急性期の治療が一段落して病状が安定しましたら、地元の病院や診療所にて治療を継続して頂くことを推進しております。引き続き安心して治療が受けられるよう努めておりますのでご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



# JICA 集団研修 “包括的なウイルス肝炎対策”が行われました

平成27年10月20日より11月13日までJICA集団研修“包括的なウイルス肝炎対策：Comprehensive countermeasure for viral hepatitis”が行われました。エジプトより10名、ミャンマーより2名の研修員が参加しました。

本院では国際医療協力の推進を病院の基本方針の1つとし、平成元年から平成25年まで発展途上国を対象にウイルス肝炎の疫学、予防及び治療に関する集団研修コースを行ってきました。この間HBVおよびHCV遺伝子型の世界的な分布と病態、それに応じた治療法など年々目覚ましい進歩を遂げました。特に平成26年に登場したHCVに対する経口抗ウイルス薬（DAA）治療はパラダイムシフトといえる大きな変革です。慢性肝炎から代償性肝硬変を治療対象とし、95～100%近く著効が得られ、世界的標準治療となりつつあります。



和装姿での記念撮影

しかしウイルス肝炎に対する予防および治療に関してはまだ大きな障碍（obstacle）が存在し、それらは国により異なります。国民や医療者の肝炎に対する理解、肝炎ウイルス検査法、輸血供給体制、データベースの構築、高価な治療に対する助成制度などが挙げられます。本邦ではこれらの問題に対して総合肝炎対策を推進し、大きな成果を上げています。そこで今回から新たに医療行政も含めた“包括的肝炎対策”として研修コースを再開しました。4週間におよぶ講義と見学研修は研修員より高い評価を受けましたが、まだ見直すべき課題もあります。さらにより良い研修にすべく努力したいと考えています。今回の研修員12名は熱心ながら和気藹々と研修を受け、セミナーは成功裏に終わりました。関係の皆様にご礼申し上げます。

（消化器内科部長 杉 和洋）



熱心に研修を受ける研修員の様子

## 平成28年度 専修医（後期臨床研修医）を募集します

総合医として活躍する若い医師の育成を専修医制度により行なっています。この制度は高い専門能力と幅広い臨床能力を兼ね備え、患者中心の医療を実践する臨床医を育成するためのものです。自分の専門能力を高めるために関連する分野を幅広く選択することが可能で複数の専門医資格を取得することが出来ます。

### 1. 特色

- ・高い専門能力と幅広い臨床能力とを持つ臨床医を育成します。
  - ・自由度の高い選択プログラムが用意してあります。
  - ・医療人としての全人的研修に力を入れています。
  - ・病院間の交流研修を行なっています。
  - ・国際的な交流研修を行なっています。
- （希望者は選考により米国Veterans Hospitalへ留学を行い米国の医療水準についての見識を深めます。）

### 2. 専修医のコースについて

- ・内科系総合専修コース、外科系総合専修コース、救命救急専修コース
- ・熊本県の総合医育成コース（プライマリーケア専修コース）があります。

### 3. 研修期間

3年間（希望により5年間）

### 4. 応募締切

平成28年1月30日（土）

問い合わせ先（応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。）

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5 国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 馬場  
TEL 096-353-6501（代） FAX 096-325-2519 E-mail 613jy01@hosp.go.jp

※研修内容についての問い合わせ 教育研修部長 大塚忠弘 E-mail otk@kumamed.jp

# Cancer Board 始めました

Cancer Boardって何？ ご存じない方がほとんどでしょう。日々のがん診療における検討会と思って下さい。現代は、がんという病が現代社会に与えるインパクトに、時代と教育が追いついていない時代にあります。医療においても、すべての医療従事者が、あらゆる領域・局面において、「がんの知識」を求められている状況にあります。臓器でもなく、職域でもなく、「がん」という新しい専門性が、すべてのスタッフに求められているのです。目の前の患者を救うために本当に必要な情報とは、一体何なのでしょう。出すべき答えは、領域の垣根を越えて学び、目の前の患者を考え続けた先にあるのかもしれない。

さあ、一緒に考えてみませんか、最良の答えを。Cancer Boardでは毎月、各科・各領域から選りすぐりの「診療する上で判断がとても困難な症例」を1例ずつ提示して貰い、参加者全員でディスカッションします。  
(腫瘍内科部長 境 健爾)

内容	日程		
	2015-16年	症例 1	症例 2
診断・判断、治療、ケアを行う上で、判断が難しかった症例の検討	9月18日	腫瘍内科	血液内科
・単一診療科で対応困難	10月16日	外科	婦人科
・原発不明	11月27日	泌尿器科	消化器内科
・合併症(高齢、認知症)で対応困難	12月18日	放射線科	皮膚科
・複雑な病態で対応困難	1月22日	がんフォーラム	
・重複がん など	2月19日	呼吸器内科	歯科
	3月25日	耳鼻咽喉科	救急部

## ユマニチュードの特別講演が行われました

平成27年10月14日(水)、NHKの特別番組で放映され話題になっているユマニチュードの特別講演を国立病院機構東京医療センターからジネスト・マレスコッチ研究所日本支部代表である本田美和子総合内科医長と同日本支部副代表・ユマニチュード認定インスト

クターである盛真知子在宅療養支援部看護師の2名の講師をお招きし開催しました。ユマニチュードは、認知症ケアの技法であり、「見る、話す、触れる、立つ」というコミュニケーションの4つの柱を基本とする技法です。講演の中の動画では、大声で叫んだり暴力的になったりするBPSD(認知症の行動・心理状態)を呈した人が、ユマニチュードを習得した人にケアされると、とても穏やかな表情を見せ、「まるで魔法のよう」でした。2時間が短く感じるユーモアのある実技を交えた講演であり、ユマニチュードの具体的な技術がよく理解できました。医師12名を含む全職種計136名と多数の出席がありました。認知症患者の多い当院では、多くの職員がユマニチュードの技術を身に付け、職員のQOL向上や離職防止につながればと願っています。  
(副院長 片渕 茂)

ユマニチュード特別講演の様子



## 研修医マッチングが行なわれました

医科で10月22日に、また歯科で27日に平成27年度のマッチング最終結果が公表されました。当院では、総合臨床研修プログラム(15名定員)、プライマリ臨床研修プログラム(2名定員)及び歯科臨床研修プログラム(2名定員)のいずれもフルマッチしました。医科では熊大学生が8名でその他は九州内外の6大学から9名、歯科では九州歯科大生2名がマッチしました。最終結果に先立ち9月25日に、一位で希望する研修先施設について中間的に公表されましたが、九州地区では沖縄県立中部病院(48名)、国立病院機構九州医療センター(26名)に次いで熊本医療センターが25名と多数の医学生が強く当院での研修を希望してくれました。臨床教育病院としての総合力を評価されたもので

あり、多くの病院スタッフの皆様および多くの協力施設の先生方のお蔭に他成らず、お礼申し上げます。

平成29年4月から始まる新専門医制度を睨んで、大学病院を主とする専門医基幹研修施設の方へ初期研修希望者がシフトするかと思いましたが、全国の動向を見る限りではそのような傾向はみられず、大学病院での初期研修希望者は昨年が43.7%、今年が42.6%と尚減少傾向にあります。マッチング結果はあくまでも仮採用(内定)であり、研修医として本採用するためには、平成28年3月18日の医科・歯科国家試験の合格発表を待たねばなりません。マッチ者全員の合格を祈っています。  
(教育研修部長 大塚忠弘)



# 「PEEC 研修」が行われました

平成27年11月1日、当院研修センターにおいて、第8回熊本PEEC (Psychiatric Evaluation in Emergency Care; ピーク) コースが開催されました。28名(1名欠席)の方が修了されましたので、当コース修了者は200名を超えたこととなります。平成25年7月より、全国各地でPEECコースが開催され、救急場面における精神科疾患の初期評価と初期対応を学ぶことが出来るようになりましたが、熊本コースは全国屈指の開催回数と修了者数を誇っており、スタッフの努力もあって参加者満足度も高く、遠方からの参加者が今も絶えない状態です。今回は熊本市内の一般医の先生方からも参加を頂き、精神科対応への関心は裾野広い問題なのだ実感いたしました。今回、プレイベントとして、



右より渡邊精神科部長、山本賢司教授、橋本精神科医長、山下精神科医長



PEECコース会場の様子

10月31日に、東海大学医学部附属病院精神医学教室より山本賢司教授にご来熊頂いてのご講演も開催することが出来ました。「自殺対策のこれまでと今後」と題し、問題の整理を図ると同時に、今後の課題などもお示しいただき、参加者にとってとてもためになるものでした。毎回、講演会は事前登録不要、参加費無料となっていますので、先生方も是非ご参加ご検討頂けますと幸いです。来年度は5月、7月、11月と3回のコースを予定しております。(精神科医長 橋本 聡)

# 看護学校『花粋祭』が行なわれました

今年は、仲間とつながり創りあげる、感謝を伝える花粋祭にしようと思い、テーマを「心と心をつなぐ創生祭～日頃の感謝を伝えよう～」にしました。また、シンボルフラワーは、私たちのテーマ「感謝」と同じ花言葉を持つガーベラにしました。

模擬店では新町のお店に協力して頂き一押し商品を集めることができました。新町の美味しい物が集まり模擬店は大盛況でした。体験コーナーでは来場者と一緒にかわいくみボタンを創作しました。また、看護技術を使って日頃の疲れを取って頂けるようにアロマを使用し手浴を体験して頂きました。皆さん「気持ち良かった」と好評でした。手浴中に会話もはずみ、多くの人の笑顔が見られました。

学習発表会ではディベートを行いました。「脳死は人の死か否か」というテーマで討論を行いました。脳死について学習を深める中で、人の死とは何か人の生とは何かについて学ぶ良い機会となりました。

今回の花粋祭には地域の方にもたくさん来て頂き私達の学校について多くの皆さんに知っていただく機会となりました。ご来場頂いた皆さんから、「楽しかった」「手浴が気持ち良かった」と笑顔で帰られていたので、嬉しかったです。ご協力頂いた新町の皆様、病院関係者の皆様ありがとうございました。2日間という短期間でしたが、多くの皆様にご来場頂けたことに感謝致します。(花粋祭実行委員長 眞崎朱里 三島彩香)



模擬店で販売された新町の一押し商品

会場に飾られたシンボルフラワーのガーベラ



ディベートの様子



アロマを使用した手浴体験

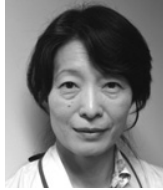
# 医学シリーズ No.223

## 眼科 (No. 10)

### 最近のトピックス

#### 小切開硝子体手術

(micro incision vitrectomy surgery MIVS)



眼科部長 近藤 晶子

本年2月、25ゲージ硝子体・白内障手術装置と広角眼底観察システムが導入されました。米アルコン社のConstellationと独ツァイス社のResightです。これによって無縫合小切開硝子体手術が可能になり、術野の視認性にも優れ、硝子体手術が飛躍的に短時間に行われるようになりました。

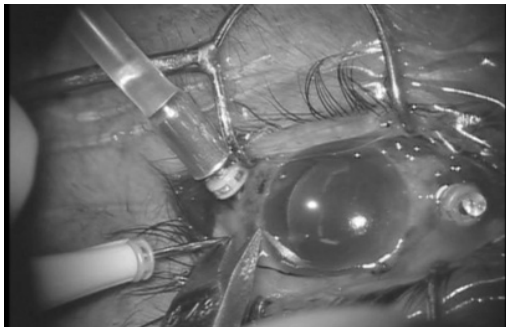
眼球の内容物である硝子体は、透明なコラーゲンの網目構造を有するゲル状組織です。硝子体は外傷や手術の際、不用意に引っ張ると網膜剥離を生じたり、創に嵌頓して組織の偏位を生じたりする見えないクモの糸のような厄介な組織で、かつては手を付けることが困難でした。1970年代に、眼内還流液で眼球の虚脱を防ぎながら高速カッターで硝子体を切除吸引する機器が開発されました。角膜縁から後方へ3～4mm部の強膜を穿刺し、孔から器具を挿入して角膜・瞳孔を通して観察しながら操作するclosed eye surgeryの手法です。硝子体カッター、灌流、眼内照明のためのポートを3か所作成する3 port systemとして術式が確立されています。眼球壁を穿刺できるのは毛様体扁平部に一致する約1mm幅の部分のみで、それより後方は網

膜、前方は毛様体突起部で刺すことは禁忌です。カッターは筒状で内部にギロチン式の歯が高速回転し、線維状の硝子体を細かくカットしながら吸引していきます。硝子体混濁や出血の除去、あるいは網膜病変に眼内から到達するための硝子体の切除が行われてきました。初期からの20ゲージ硝子体手術は、結膜を開け、1mmの強膜創を作成し、操作の間は孔をプラグで塞ぎ、終了後は強膜創・結膜弁とも縫合する必要がありました。

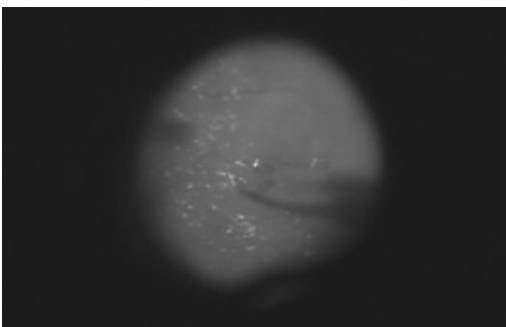
小切開硝子体手術は、経結膜的に強膜を斜めに穿刺し、眼内に刺入したトロカールによってガイドされるカニューラを通して25ゲージ(幅0.57mm)の手術器具で硝子体手術を行い、手術終了時にはカニューラを抜去するだけで強膜創が自己閉鎖し手術を終了することができる無縫合手術です。器具の径が細くなった分、カッターは切除硝子体の量を増やすために～7500cpmの高速回転による高率なカッピングレートが可能にし、材質の剛性が高められ、眼内照明もキセノン光源で細い先端からより明るい照明が達成されます。また観察系は、従来のフローティングレンズから前置レンズシステムによってワンタッチで広角な眼底観察が可能になりました。眼内レーザーやガス・シリコン充填装置も内蔵されています。

当院で扱う対象疾患は、糖尿病網膜症による硝子体出血や黄斑前膜などです。硝子体手術の技自体は高難度であるため、熊大の網膜硝子体専門の医師の応援を得て施行しており、多数の難症例を扱うことはできませんが、同機器は最も出番の多い白内障手術機器も兼ねており眼科手術室の主役となっています。

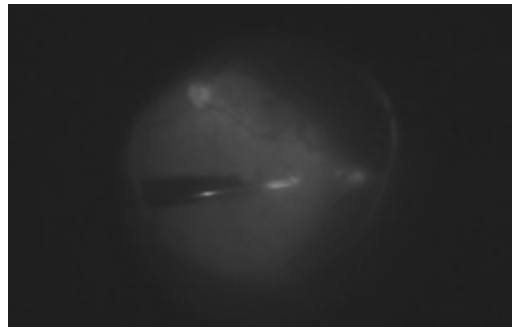
トロカールを刺入し、ポートを作成する。



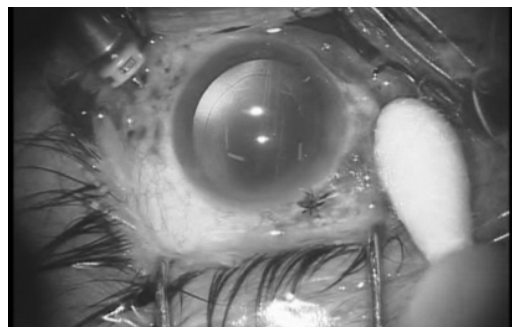
マイクロ鑷子で内境界膜(4μm厚)の剥離。



眼内照明使用で、硝子体カッター駆動中。



トロカール抜去。綿棒にて圧迫し、自己閉鎖創の確認。





いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ99回

## 国立病院臨床検査技師協会九州支部会第1回微生物検査サーベイランス解析報告

臨床検査科 林 秀幸

### 【目的】

近年、メタロ-β-lactamase産生菌や多剤耐性緑膿菌などの医療関連感染が報道され、多剤耐性菌が注目されています。国立病院臨床検査技師協会九州支部会微生物研究班では、耐性機序の明確な現在問題となっている耐性菌の検査・報告方法について、各施設の検査状況を把握する目的で微生物検査サーベイランスを行い解析しました。

### 【対象と方法】

九州グループ内国立病院機構病院ならびに国立療養所21施設を対象としました。菌株はIMP-1型メタロ-β-lactamase (MBL) 産生*Pseudomonas aeruginosa* (多剤耐性緑膿菌: MDRP) の臨床分離株とし、連結不可能匿名化で配布しました。感受性は、PIPC、CAZ、AZT、IPM、MEPM、GM、AMK、LVFX、CPFXを対象とし、寒天平板希釈法のMIC値と比較しました。

### 【結果】

#### ①同定・感受性に使用した機器・試薬

使用した同定・薬剤感受性自動測定装置は、VITEK2 (シスメックス) 16施設、Walkaway (ベックマンコールター) 5施設でした。

#### ②同定結果

参加した21施設中*P. aeruginosa* 回答した施設は21施設 (100%) でした。一方、感受性結果からMBL産生MDRPと回答した施設は21施設中2施設 (10%) であり、他はMBL産生*P. aeruginosa* 14施設 (70%)、2剤耐性緑膿菌1施設 (5%)、*P. aeruginosa* 3施設 (15%) でした (表1)。

#### ③薬剤感受性結果

AMKは、寒天平板希釈法32 μg/mlに対して、

VITEK2使用の15施設は<32 μg/ml、Walkaway使用の1施設が16 μg/mlと回答していました。その他の薬剤は寒天平板希釈法のMIC値と2管差以内の誤差でした (表2)。

#### ④実施した追加試験

20施設中、SMA (メルカプト酢酸ナトリウム) を用いたMBL確認試験を実施した施設のは15施設、シカベータテスト (関東化学) のみの施設は1施設、実施しなかった施設が4施設でした。

#### 【まとめ・考察】

感受性結果を加えた最終同定菌名をMBL産生MDRPと回答した施設は2施設だけであり、多くの施設がMBL産生*P. aeruginosa* と回答していました。これはVITEK2を使用している施設においてAMKが<32 μg/mlと判定され、MDRPの条件を満たしていなかったためと考えられます。異なる検査機器では測定原理が異なることがあり、検査機器の特徴を理解したうえで使用し、結果を判断しなければならないと考えられました。また、本菌は臨床的意義も高く、感染対策においても重要であることから、MBL確認試験を実施していなかった施設に関して結果のフィードバックと共に改善のために支援、アドバイスが必要であると考えられます。

表1. 感受性結果を受けた最終同定結果 (n=20施設)

<i>P. aeruginosa</i> (MBL産生)	14施設 (70%)
MDRP (MBL産生菌)	2施設 (10%)
2剤耐性緑膿菌	1施設 (5%)
<i>P. aeruginosa</i>	3施設 (15%)

表2. 薬剤感受性結果

AMK	MIC (μg/mL)							
	2	4	8	16	32	64	128	256
VITEK2 (n=15施設)		1施設	4施設	10施設				
WalkAway (n=5施設)				1施設	4施設			

■…寒天平板希釈法 (標準法) によるMIC値

■…1管差内のMIC値

■…2管差内のMIC値

## 新任職員紹介



脳神経外科

まつざき ひろあき  
松崎 啓亮

はじめまして、11月9日より脳神経外科に赴任いたしました松崎啓亮と申します。熊本大学を卒業後、熊

本市民病院での2年間の初期研修を経て、今年4月に熊本大学脳神経外科へ入局いたしました。

脳神経外科を志してまだ日が浅く、疾患の多様さ、奥深さ、また手術の美しさ、難しさに日々驚きながら、楽しく勉強させていただいている段階です。これから熊本医療センターで多くの外傷や脳血管障害を経験し、大いに成長できるよう励んでまいります。

慣れない環境で多々ご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、いつでも院内でお気軽に声をかけていただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

## 研修医レポート

### 臨床研修医

よしい りゅういち  
吉井 隆一



こんにちは。研修医1年目の吉井隆一と申します。産業医科大学を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から半年が経過し、まだまだまわりの方々にご迷惑をおかけすることも多いですが新しい環境にも少しずつ慣れてきました。

研修については外科から始まり呼吸器内科、そして麻酔科をまわり現在は腎臓内科で研修をさせていただいております。外科から研修をスタートしましたが最初は電子カルテの使い方、薬の処方そして検査のオーダーの仕方など業務を覚えることで精一杯で指導医の

先生やスタッフの方々にもご迷惑をおかけするばかりでした。

次に回った呼吸器内科では患者さんをお看取りすることも多く、医療の限界を感じるとともにどんな状況でも冷静に対応しなければならない医師としての厳しさも痛感いたしました。

麻酔科では静脈ルート確保や気管挿管などいった基本的手技を身につけることができました。オンコールで呼び出されることが多く大変なときもありましたがそれだけ手技をする機会も多く与えていただいたため自信を持って基本的手技をこなすことができました。

現在は腎臓内科で研修を行っています。腎臓内科は外科的な手技も多い反面、透析患者の合併症など内科的な知識も求められるため大変な部分も多いとは思いますが一つでも多くのことを学びとり充実した研修にしていければと思います。

指導医の先生をはじめスタッフの方々には熱心にご指導していただき感謝しております。まだまだご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

### 臨床研修医

やぎ よしたか  
八木 喜崇



こんにちは。研修医1年目の八木喜崇と申します。鹿児島大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。研修が始まり7ヶ月が経ちますが、診療や業務でわからないことも多く、スタッフの方々に迷惑をかけながら毎日を送っております。

研修については、循環器内科から始まり、救命救急部、糖尿病・内分泌内科、そして現在は外科にて研修させていただいております。

最初の研修となる循環器内科では、正直に申し上げて電子カルテの使い方・検査や処方のオーダーに大変苦労しっぱなしでした。しかし、指導医の先生をはじめとし、スタッフの方々、研修医の先輩方にやさしく丁寧に教えていただき、少しずつ分かるようになりました。診療では、急性心筋梗塞、肺塞栓、高血圧や弁膜症など様々な疾患を経験することができ、最も重要

な検査のひとつである心電図についても詳しく学ばせていただきました。

次に研修した救命救急部では、動脈採血や中心静脈カテーテル、胸腔穿刺といった様々な手技を経験し、病棟では様々な病態で入院されている患者さんを診察させていただきました。重症の患者さんを前に思い通りにいかないことも多かったですが、全身管理や急変時の対応等、これからずっと必要であろう知識の基礎を得ることができました。

糖尿病・内分泌内科では糖尿病の教育入院で入院されている患者さんに対して、生活指導や対話を通して診療しました。実際に自分の生活習慣を考え直す良い経験となりました。

外科では緊急手術もとても多く、ハードな研修ではありますが、術後の患者さんが劇的に状態が良くなっているのを目の当たりにし、とてもやりがいを感じております。

まだまだ分からないことも多く、たくさんの方々に支えられ日々過ごしております。医療は決して一人では出来ないのだと改めて痛感しております。この先もまだまだご迷惑をおかけするとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



# 研修のご案内

## 第171回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）  
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]  
 [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成27年12月17日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

### 1. 「1型糖尿病合併妊娠の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科

大津可絵、川口ゆかり、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、西川武志

### 2. 「低血糖性昏睡で救急搬送された高齢女性の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科

小野恵子、八木喜崇、川副健太郎、白谷美和、大津可絵、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、高橋毅、西川武志

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

## 第57回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成27年12月19日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：たしま外科内科医院 院長

田嶋 哲 先生

演題：「鼠径ヘルニアの治療」

### 1. 鼠径ヘルニアの病態と治療（従来法）

熊本市立熊本市市民病院外科医長

松本克孝 先生

### 2. 鼠径ヘルニアの治療（TAPP編）

国立病院機構熊本医療センター外科医長

久保田竜生

### 3. 鼠径ヘルニアの治療（TEPP編）

天草地域医療センター外科部長

外山栄一郎 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第203回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）  
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成27年12月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 1. 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 腎臓内科からの症例」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田正郎

「第2症例 緩和の症例から」

国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長

磯部博隆

### 2. ミニレクチャー「IgG4関連疾患について」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

二口俊樹

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

# 2015年 研修日程表 12月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修センターホール	研 修 室
1日(火)		
2日(水)		
3日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「傷の治療」 国立病院機構熊本医療センター形成外科部長 大島秀男	
4日(金)		
5日(土)	14:00~16:00 第266回 熊本県滅菌消毒法講座 「医療用包装材料の基礎と最新情報」	
7日(月)		
8日(火)		
9日(水)		
10日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「耳鼻咽喉科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村尚樹	
11日(金)		
12日(土)	13:00~15:30 第139回 公開看護セミナー 「理由を探る認知症ケア」 認知症ケア研修オフィス アプロクリエイト 代表 裏 鎬洙	
14日(月)		
15日(火)		
16日(水)		
17日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「摂食嚥下障害の評価と治療」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 14:00~15:00 第33回 市民公開講座 「やけどの治療について」 国立病院機構熊本医療センター形成外科部長 大島秀男	19:00~20:45 第171回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
18日(金)		
19日(土)	9:30~12:00 公開肝臓病教室 「もっと知りたい肝臓の話」 15:00~17:30 第57回 症状・疾患別シリーズ 「鼠径ヘルニアの治療」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 たしま外科内科医院 院長 田嶋 哲 1. 鼠径ヘルニアの病態と治療(従来法) 熊本市立熊本市民病院外科医長 松本克孝 2. 鼠径ヘルニアの治療(TAPP編) 国立病院機構熊本医療センター外科医長 久保田竜生 3. 鼠径ヘルニアの治療(TEPP編) 天草地域医療センター外科部長 外山栄一郎	
21日(月)	19:00~20:30 第203回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
22日(火)		
24日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「ERでの皮膚疾患」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野公治	
25日(金)		
28日(月)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)